

平成19年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ナシ黒斑病（No. 3）

平成19年7月13日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

7月に入ってから、梅雨前線が停滞し、曇りや雨の日が続いており、ナシ黒斑病の発生に好適な条件が続いている。今後、本病の発生の増加が予想されるので、防除を徹底する必要がある。

2. 情報の根拠

- (1) 7月に入ってから、梅雨前線が停滞し、曇りや雨の日が多く、ナシの枝葉は全般に軟弱気味に生育している。
- (2) 7月上旬現在、現地では一部で多発園が認められる。
- (3) 7月以降、園芸試験場内では新梢葉の発病が急増し、平年を大きく上回っている(表1)。
- (4) 気象予報(7月6日付)によると、今後の1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、本病の発生、蔓延に好適な気象条件となっている。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 梅雨期間中の降雨により徒長枝葉の発病が増加するので、梅雨明けまでは防除間隔を7～10日とし、徒長枝葉の発病の多い園では追加防除を1～2回行う。
- (2) 防除薬剤は、アリエッティC水和剤800倍液、アミスター10フロアブル1,000倍液などを散布する。
- (3) 園内の風通しをよくするため、下草の管理を徹底する。

表1 ナシ黒斑病の新梢葉の発病状況(%)

月	旬	本年	平年
5	中	0.0	-
	下	0.0	0.2
6	上	0.0	0.5
	中	0.4	1.0
	下	3.9	3.0
7	上	7.3	4.1
	中	12.1	5.0
	下		5.7
8	上		7.5
	中		8.4
	下		9.5

平年：平成9～18年